

あけました。

今年もどうぞよろしく、つて前回10月だからな。こ

んなことでインカ帝国、とも思ったが、そも、この「アタリ」自体がモノカキとしての手を休めないための方策だったわけで、これでいいのだといえればいいのである。たぶん、

で、今何をしているかという、二〇一一年に出た『高校演劇論』の続編のようなものを作っておる。なんでぼかすかという、前例として「本というものは書店に並ぶまでわかんないヨ」ということがあるためじゃ。一応来年の夏に出るという予定で進んでいるものの、零細出版社だと二年二年遅れるのはザラだもんよ。最後に告知する『耳栓』も色々あって一年以

上刊行が遅れたのである。この辺を記事にすると読者が面倒くさい。やりません。あと子供が産まれた。読

み返すと面白いので記録しておこうと思うんだけど、当初医者から云われた予定日は一月五日で、そうするとどうもカミサンが「どうも一週間

くらいずれて申告した気がする」とい

うのです。となると歳末三十日なんです。が、初産だと遅くなるしね、みたいなことを方々で云われたりして、まったく出産予定日が読めなくなっちゃった。里帰り出産なのでいざというときは新幹線など



で馳せ参じねばならんのである。ところがどっこい、件の本の取材を年の暮れ28日に終えてもまだうんともすんとも云わない。大晦日になって「生まれる生

まれな関係なく広島に来たらいいぢやない」ということなので

予約なしで新幹線に乗り込むわけです。新大阪終点の自由席なら座れんじゃね作戦が見事に当たり、土産を買える混み様ではないので駅のホームで

赤福（伊勢みやげ）を買う、またぎゆうぎゆうのぞみに乗り込み、化粧台前に体を押し込めるとカミサンから「陣痛

かもしれないから病院に行く」とメールがあり、福山についたところに「ついてすぐ破水したわ（笑）」とメールが

あり、分娩室についたところには横向きでお腹を押されて

おった。完全にベッドの横に陣取って、助産師さん二人があれこれ手を下すのをぼーっと見ておった。「旦那さん、そろそろ」カメラの準備を、というのでオロオロと携帯を取り出しはしたものの、まだ悪戦苦闘しているもので、とりあ

えず気張っているカミサンの顔を撮影してみるのである。そこから仰向けになり、うそーとかぎやーとか痛いとか言っているのを見、「ああ、この穴はいつか見た穴」などと（風邪薬のせいもあるが）ぼんやりしていると、おんなじような毛の生え具合の棒状のものが出てきて、耳が見えて、そこからはあつという間でした。15時30分、2970グラム。男児。病院の敷居を跨いでたった3時間。それにしても、ながしろそっくり。

べう式「アタリ」は、書肆べうの発行する冗句と与太話のフリーペーパーです。出来れば各自でPDFをダウンロードし、プリンターなどを駆使してお楽しみください。A4版です。御連絡はbanric@gmail.com（ながしろ）まで。Website: <http://sbew.web.fc2.com/atari/>

西洋綴装美製懐中本全一冊部分代用一割増  
●定価金廿五圓 金拾五圓 郵送料  
●特別減價 金拾五圓 四錢  
近頃英語の流行する原因の追々外人の内地雜居をも許されんとするに於て其故にや農工商童幼婦人に至るまで「グライム」モックグライム」等すべて日用の語に通せざるは、之に通せざれば應接に不便あり今此書の新入々の習智に充つべきも自由自在に話にて他聞を彈る密談内話をも自由自在に話し勿論取り得べき真便の書なり若し居居間を一冊必ず袖中に携へ給へんことを希望す  
●賣例 ●大阪心齋橋通 此村欽英堂 ●賣例 ●大阪心齋橋通 此村欽英堂

返金證  
八年か死者  
數年の難症三週  
●妙也百發百中必治の藥也

天下無二の運動機  
元賞發  
會商一ソウシ式野勝  
すまげ上し申をび慶おの年新でん謹  
會協春回んやちカリしもしも  
番五四四四一四一區川石小路電

# と

ここまでだけならば非常に平和裏に事が運んだんですが、カミサンの実家に帰っておでんなど御馳走になつておるとあきらかに体調がおかしい。もう上から下から、体中の穴という穴からいろんな体液を噴き出しておつた。病院食も相伴にあずかつたし、おでんも食つたし、これは病院が義父母が苦しんでいゝるのではないかと20分ごとにとトイレに起きつつ考えていると翌朝みんなピンピンしている。いや、それはそれで結構なことなんです。結局吐きすぎて痛む腹筋をさすりつつ、四日くらいまで病院に子供を見に行く以外は義実家の布団に倒れておつた。そんな年明け。

# 可

愛い可愛いちゅても楽しめるのは実の親と祖父母くらいなものなので、これ以上この話はせんことにする。可愛いには違いないが、正直アタシの中では面白珍生物的な感情のほうが強いな。ただひたすらに面白い。

# 違

話をする。前回から今回までで面白かつたのは国立新美術館のチューリヒ美術館展。に往こうと思つたら火曜日休みでして、東京の美術館は押しなべて月曜休みちやうんかい、と憤慨しながら上野の西洋美術館に駆け込むわけです。フェルディナント・ホドラー展。一月下旬から兵庫県立美術館で催されるらしいけれども、平行主義の權威だという。へえ？ 昔のスイスフラン紙幣の絵を描いている時点でスイスフランが大暴騰しているようですが、平行主義。へえ。当然誰かが訳して、パラレリズム

レリズム  
ムをそう訳したてな話だ。  
へ類似する形態の反復によ



って絵画を構成する「パラリズム」という方法を提唱したホドラーは、人々の身体の動きや自然のさまざまな事物が織りなす、生きた「リズム」を描き出すことへと向かいました。(パンフレットより) どうもよくわがねんだよね。当人が「平行主義」って云いだしたんだからそこは間違いない。でも、どこが平行なのかの説明にやなつてないんです。実際に見てもっと明快な説明が出来る。

# 要

はアレよ。『へうげもの』の古田織部だ。自然物に「めぎゆわ」とか「モクー」とか質感に名前を付けて配置する。音楽におけるサンプリングに近い感じなんじゃないか。質感のサンプリング。

# そ

の後無事にチューリヒ美術館展にも行けました。こっちは近代美術のベストアルバムみたいな展示。作品数を抑えてその分じっくり見られていいもんでした。

# し

かしなんだね、こういうところに、せめて世界に写真が普及する前と後の作品だとか、そういう鑑賞のための補助線を引くだけでずいぶん観る側のリアリティとか作品の価値への実感が増すだろうにな、とマジで思います。

印象派なんかア単に綺麗で風景だったりするから黙ってても客が入るんだらうけど、なんか楽しみ方として勿体ねえなあ、と切に思うのでした。これ以上混んでも困るのかもしれないけど。

バックナンバーはこちら

弊紙「アタリ」のバックナンバーはウェブサイトで

<http://shew.web.fc2.com/atari/>からご覧いただけます。

おしらせ

年末十二月二十日に刊行された宇田川豪大第四戯曲集『耳栓』に解説を書いております。ちょっとした文章量ですがかなりきつちり書けたのでお目にかかれは幸いです。

買えとは云わないので近所の図書館にリクエストしてもらえと超うれしいです。

舞台お知らせ

その『耳栓』にも収録されている「地獄の鎖帷子」という舞台が四月一日(水)夜八時から六本木の俳優座劇場で上演されます。料金千円。

当日の様子は夏あたりにTOKYOMXで放映されるらしいですが予定は未定、ぜひライブでご覧ください。

今回はこれでおしまい。